

2 0 0 4 年 6 月 2 9 日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-3664-5697

9 領域 3 4 薬効分類の医療用医薬品調査を実施

- 降圧剤の伸びにより 2 0 0 5 年の循環器官用剤市場は 1 兆円超と予測 -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、このほど循環器官用剤、感染症治療薬など医療用医薬品 9 薬効領域の疾患概要、患者動向、治療薬剤、市場概況、開発状況などを調査し、その結果を報告書「2 0 0 4 医療用医薬品データブック No. 1 ~No. 3」にまとめた。

今回調査対象とした 9 領域：循環器官用剤、感染症治療薬、精神神経疾患治療剤、脳疾患治療剤、消化器官用剤、抗アレルギー剤、感覚器官用剤、皮膚疾患治療剤、呼吸器疾患治療剤

医療用医薬品市場は、医療費の抑制策で伸び率は鈍化しているものの、日本はアメリカに次いで世界第 2 位の規模をもっており、豊富な資金力を持つ欧米の製薬企業は日本市場で攻勢を強めている。世界的な規模で M & A を繰り返し巨大化している欧米企業に対して、日本企業も山之内製薬と藤沢薬品が 2 0 0 5 年 4 月に合併することを発表した。日本の市場はすでに国際競争に組み込まれており、欧米企業を含めて生き残りに向けて熾烈な戦いが始まっている。

調査結果のポイント

9 領域合計の市場規模は 2 0 0 5 年に 3 兆 2, 1 0 0 億円 (2 0 0 3 年対比 1 0 3 %) と予測

9 領域合計の市場規模は、2 0 0 3 年の約 3 兆 1, 1 0 0 億円から 2 0 0 5 年は約 3 兆 2, 1 0 0 億円へと約 1, 0 0 0 億円の増加と予測する。2 0 0 3 年から 2 0 0 5 年にかけて、精神神経疾患治療剤 1 0 9 % (2 0 0 5 年の市場規模 3, 2 1 0 億円) 脳疾患治療剤が 1 0 8 % (同 1, 1 8 0 億円) 呼吸器疾患治療剤が 1 0 6 % (同 2, 3 9 0 億円) が高い伸びを示している。また 1 兆円を超える市場規模に達する循環器官用剤も 1 0 6 % と順調な伸びを示すことが全体の伸びを支える。精神神経疾患治療剤では、片頭痛治療剤、抗うつ剤、抗パーキンソン病剤が、脳疾患治療剤では抗痴呆剤が、呼吸器疾患治療剤では COPD 治療剤が 1 1 0 % 以上の伸びで 3 領域の伸びを支えるとみられる。降圧剤も 1 0 9 % と循環器官用剤の伸びを支える。

循環器官用剤、感染症治療薬、消化器官用剤の 3 領域が 2 0 0 5 年 (予測) に 5, 0 0 0 億円超

2 0 0 5 年の市場は、循環器官用剤が 1 兆 1 6 0 億円と 1 兆円を超え、感染症治療薬が 6, 0 8 5 億円、消化器官用剤が 5, 1 2 0 億円と 3 領域で 5, 0 0 0 億円を超えると予測する。循環器官用剤では降圧剤が 6, 8 0 0 億円 (2 0 0 5 年予測) 感染症治療薬では抗生物質が 4, 2 5 0 億円 (同) 消化器官用剤では消化性潰瘍、逆流性食道炎及び胃炎治療剤が 3, 3 8 0 億円と引き続き大きな市場を形成する。

今後期待される薬効分類は片頭痛治療剤、COPD (慢性閉塞性肺疾患) 治療剤、心不全治療薬

2 0 0 3 年から 2 0 0 5 年にかけて伸長する薬効分類は、片頭痛治療剤、抗うつ剤、抗パーキンソン病剤 (以上精神神経疾患治療剤) COPD 治療剤、喘息治療剤 (呼吸器疾患治療剤) 心不全治療薬、降圧剤 (循環器官用剤) 抗痴呆剤 (脳疾患治療剤) ワクチン製剤、抗真菌剤 (感染症治療薬) などである。喘息治療剤、降圧剤を除くと 1, 0 0 0 億円未満の規模 (2 0 0 5 年予測) である。

主要領域別市場概況

<循環器官用剤>

循環器官用剤市場は9,600億円(2003年)を超える大きな市場であるが、降圧剤が3分の2を占め、降圧剤の動きが市場を左右する傾向にある。降圧剤市場は相次ぐブロックバスターの登場で年々拡大しているが、他の疾患では横ばい又は減少傾向となっている。血圧をコントロールすることが、脳卒中や虚血性心疾患の罹患を防ぐといった考え方が、業界及び患者にも浸透し市場が拡大している。反面、脳卒中や虚血性心疾患に対する治療薬の市場は医療費削減の流れの中伸び悩んでいる。

<感染症治療薬>

抗生物質は感染症治療薬の70%以上を占める。MRSAやVREなどの耐性菌の出現問題から、薬剤の適正使用が求められ、減少傾向に転じた。抗ウイルス剤は抗インフルエンザ治療剤の発売を契機に市場が拡大し、抗真菌剤は日和見感染患者の増加や診断法の進歩、新製品の発売や患者への疾患啓発により市場が拡大している。

ワクチン製剤は、感染症法が改正され、65歳以上の人にインフルエンザワクチンが勧奨接種となり接種対象者が増加し、インフルエンザワクチン市場が拡大した。

MRSA (Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus): メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRE (Vancomycin Resistant Enterococci): バンコマイシン耐性腸球菌

<精神神経疾患治療剤>

抗不安薬・睡眠導入剤は、精神神経疾患治療剤では最も大きな規模である。睡眠導入剤が拡大しているものの、抗不安薬は抗うつ剤との競争にさらされ、全体では低迷している。抗うつ剤は、SSRI(選択的セロトニン再取り込み阻害薬)の承認、上市により急速に市場を拡大している。抗うつ作用に加え、副作用が少ないため専門医以外の一般医にも処方されるようになり急成長している。

統合失調症治療剤は、非定型抗精神病剤が複数ブランド出揃い、各社のプロモーションが活発になった。海外での治療パターンで第一選択薬の地位を非定型抗精神病剤が獲得してきたこともあり、大幅な拡大ペースへと転じている。

片頭痛治療剤は新薬の承認、上市が活発な新市場であるが、頭痛という疾患に対する認識の弱さと薬価の高さが需要開拓の壁となり、拡大はしているものの規模はまだ小さい。

<抗アレルギー剤>(喘息への処方、点鼻、点眼は別項扱い)

ヒスタミンH1拮抗薬が85%以上を占めている。ヒスタミンH1拮抗薬は、中枢鎮静、抗コリン作用などの副作用が少ない、アレルギー性鼻炎では全般改善度がよく軽症から重症まで使用されていることで受け入れられている。患者数の増加は市場拡大要因の一つであるが、花粉の飛散量に左右されるため、患者数の増加イコール市場拡大とは限らない。世代交代しやすいことも特徴で、副作用が少ないこと、医師や患者が比較的積極的に新しい治療薬を試すことが要因として挙げられる。「アレグラ」「アレロック」「クラリチン」などの新製品の登場が続いている。花粉症治療に対する主な不満として、眠気や効果が実感しにくいことが挙げられ、新製品はこの不満を解消し、薬物治療に消極的な患者を取り込んだ。

<感覚器官用剤>

緑内障治療剤は、遮断剤が第一選択薬剤として広く処方されていたが、プロスタグランジン系製剤がその強力な眼圧降下作用で評価され、遮断剤に取って代わり急拡大している。更に緑内障は高齢者に罹患率が高くなり、高齢社会の進展に伴う患者数増加も市場拡大の大きな要因となっている。

その他の眼科用剤は横ばい傾向。点鼻・点耳治療剤は、アレルギー性鼻炎の患者の増加によって市場が支えられている。アレルギー性鼻炎治療は経口剤がメインであり、点鼻剤は携帯用といった付随的な位置付けにある。

<呼吸器疾患治療剤>

呼吸器疾患治療剤の6割強を占める喘息治療剤ではロイコトリエン拮抗剤と吸入ステロイド剤が牽引役を果たしている。中でも吸入ステロイド剤は薬価が高いこともあり、2刺激薬やテオフィリン製剤からのシフトが進むだけで金額ベースでは大きな伸びをもたらしている。

COPD治療剤は疾患の概念がようやく形成、認知され始めた段階で、市場はまだ揺籃期にある。患者数は毎年1割程度のペースで増え、市場拡大が始まっている。

調査対象

循環器官用剤	降圧剤 各種梗塞治療剤・血栓溶解剤・血管拡張剤 心不全治療薬 抗不整脈薬 狭心症治療薬 循環器官用剤その他	脳疾患治療剤	抗痴呆剤 脳血管障害治療剤
		消化器官用剤	消化性潰瘍 逆流性食道炎及び胃炎治療剤 肝疾患治療剤 膵疾患治療剤 その他消化器関連用剤
感染症治療薬	抗生物質 抗ウイルス剤 抗真菌剤 ワクチン製剤	抗アレルギー剤	抗アレルギー剤
		感覚器官用剤	緑内障治療剤 その他の眼科用剤 点鼻・点耳治療剤
精神神経疾患治療剤	抗不安薬・睡眠導入剤 抗うつ剤 統合失調症治療剤 他の向精神薬 抗パーキンソン病剤 抗てんかん剤 片頭痛治療剤	皮膚疾患治療剤	外用抗菌剤 外用消炎剤・アトピー性皮膚炎治療剤 褥瘡治療剤
		呼吸器疾患治療剤	喘息治療剤 COPD 治療剤 呼吸促進・鎮咳・去痰薬 消炎酵素・総合感冒薬

高脂血症治療薬、代謝系疾患治療剤、解熱消炎鎮痛剤、血液製剤、抗がん剤、栄養補助剤、麻酔・筋弛緩剤、免疫抑制剤、体内診断薬、消毒薬、関節・骨疾患治療剤、女性疾患治療剤、泌尿器疾患治療剤、ヒト成長ホルモン剤、漢方薬の15領域については、2005年に調査予定

調査方法

富士経済専門調査員による対象企業および関連企業・団体へのヒアリング

資料タイトル：「2004 医療用医薬品データブック No.1～No.3」

体 裁：A4判 No.1 246頁、No.2 276頁、No.3 249頁

価 格：各巻160,000円(税込み168,000円)

3巻セット価格 450,000円(税込み472,500円)

3冊セットCD-ROM版 460,000円(税込み483,000円)

調査・編集：富士経済 東京マーケティング本部 Medical Care Div.

TEL:03-3664-5831 (代) FAX:03-3661-9778

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>